
メルマガ

NPO 法人市民福祉団体全国協議会・復興支援事務所
NO.8 (2012年9月15日発信)

しっかい!

歩もう	つながろう
支えよう	広げよう
学ぼう	増やそう

★被災地関連情報★

引き続き募集中です!
問い合わせは連絡先へ直接行ってください。

【山元町仮設の女性グループ支援】 中古ミシン提供募集!
連絡先[ささえ愛山元・中村怜子 080-3031-5722]

仙台事務所モデル事業事務局の宍戸です。原稿となるとあまり動かない頭をフル回転させても、時間がかかるので、先ずは被災地の現状をお伝えしたいと思います。

地元、宮城県東松島市で知りあった方の活動を紹介します。

★教育を考える親たちの会 代表 川村 隆弘 氏
～2012年度の学校の図書費が1校あたり【2万円】です～

川村氏は『学校図書室支援プロジェクト』を立ち上げ
図書券・図書カード・支援金のお願いをしています。

<https://sites.google.com/site/tosyo311/home>

東松島市の子供達は、震災で、死別・転校と沢山の友達と離ればなれになりました。残った者も、スクールバスで隣町の仮設から1時間掛けて通う子もいます。

東松島市には小中学校併せて14校ありますが、この悪化した環境の中で、図書費がたったの2万円というのは、追い打ちをかけるような出来事ではないでしょうか。

もしご支援頂ける方がいましたら、直接ご支援頂くか、市民協仙台事務所 宍戸宛に送って頂ければ、責任もって届けます。

次に、モデル事業の候補でもありました東松島市室浜地区の手芸サークルを紹介します。

【バーバ・キッチン】

4人のおばちゃんが仮設の台所で、アロマキャンドルを作っています。

だからバーバキッチン（婆の台所）といいます。

(FBより抜粋)

先日知り合った、ここを支援しているKさんが、おばちゃんが催しに参加して作ったロウソクを

見て、「売り物にならないかな・・・」と言ったのがきっかけだそうです。

おばちゃん達は、勉強してアロマキャンドルを作るようになり、Kさんが人づてにコツコツ売れた事により、おばちゃん達にも元気が出てきて近隣の友達やお寺などに、使い古しのローソクを集めるなど活発になったそうです。

★支援情報

使い古しのローソクを募集しています。復興や自立支援としてローソクを送ってくれる方は仙台事務所 穴戸までご連絡下さい。コーディネーターの方に直接問い合わせさせて頂いても構いません。

※購入した物(わざわざ買った物)は受付されませんのでご了承ください。



★問い合わせ先

コーディネーター・窪田さん
電話 090-7790-7373
(19時以降にご連絡下さい)
メール
baaba.kitchen@gmail.com

【パラソル喫茶>居酒屋赤ちようちん】

(大久 恵美子)

パラソル喫茶も、今では毎月開催する場所と担当する団体が定着してきています。それはそれで仮設住民の皆さんの楽しみになっているので良いのですが、参加して下さる方も毎月ほぼ同じ、男性の参加が少ないなど、どこも共通した課題を抱えていました。

そんな中、パストラル・ケアPネットの伊藤宣子さんチームが9月8日～9日の1泊で石巻の大原浜へ行き、8日の夜に「居酒屋」を開催しました。

日昼のパラソル喫茶では参加できない、働いている方や男性陣も来て、お酒の席ならではの本音も聞かれたようです。

以下に、伊藤さんの報告書からの一部を転載させていただきます。

「今回は、初めて集会所に泊まるという経験をした。一部・二部にわけ、いつも参加して下さる方とはもちろん、若い漁師の方々とも夜更けまで話した。彼らにとってもじっくり話す時間が出来たのなら良いのだが…。おやつやおつまみは手づくり、この暑さに食中毒に注意を払った。いつもと様子の違う食卓に歓声があがり、嬉しかった。アルコールはビールや焼酎。皆で持参した歌詞カードで唄った。参加したボランティア達は、一様に今回の泊まりが有意義で、仮設の方々との今までにないつながりを感じ、深く心の中のお話を伺うことが出来ました。」

なお、伊藤さんの「赤ちようちん」があると居酒屋らしくなっているのだけれど」という声を聞いた「おひさまくらぶ」の清水さんが、赤ちようちん購入に向けていろいろと調べてくださった

ので、次回居酒屋開催のときには、「赤ちょうちん」がパラソル喫茶ののぼりの代わりになりそうです。

また仙台市扇町1丁目仮設住宅で、毎月1回食事を提供しているパラソル喫茶チーム「男の台所サロン」の安海さんも夜に居酒屋を開催する案があるとのこと、楽しみです。



【震災モニュメントについて（後世に伝える力の一考）】

（古賀 久恵）

先日、東京へ一時帰郷した際に東京都慰霊堂に行ってきました。関東大震災によって亡くなられた方 58,000 人のご遺骨と東京大空襲などによって亡くなられた 105,000 人のご遺骨が安置されているところです。復興記念館も敷地内に併設されています。震災と戦災のメモリアルパーク「横綱町公園」（※1）内にあります。

この公園の敷地は、陸軍の被服廠地。関東大震災当時は東京市が広大な土地を買い上げ、公園を建設する計画が進められている途中だったため、広大な空き地だったそうです。震災当日は、多くの方がその空き地に避難しましたが、強風による飛び火によって避難した人のほとんどがこの地で焼死されたそうです。その数は約4万人、必然的にそこに白骨の山があったと言われています。その後、納骨堂建設が行われ、震災を風化させないために1930年に震災記念堂が建てられ、さらに東京大空襲で犠牲になった方々が埋葬され、「東京都慰霊堂」と現在の名称になったそうです。公園内と復興記念館には関東大震災の猛威がわかるものがたくさん展示されています。強風にあおられて飛んできたトタン屋根がひっかかっている木や熱で曲がった自転車など、当時のまま展示されています。

被災した日常品がたくさん展示されていたため、どのようにして収集したのかを職員の方に訪ねてみました。職員の方はあくまでも伝聞だと前置きして次のように説明してくださいました。

「震災復興の資金を集めるために各地で震災の復興展覧会が開催された。震災直後に展覧会で展示するために被災状況が伝わる日常品などを広く一般市民から募集し、集まったものである。現在展示されているもの意外にも倉庫にたくさんの品々がある」

東京生まれ東京育ち、関東大震災を体験している祖父とも同居していた私ですが、この震災記念堂に行ったことはありませんでした。学校の社会科見学でも行きませんでした。小学校の頃「私たちの東京」という副読本がありましたが、おそらく紹介していなかったか、扱いが小さかったと思います。私が慰霊堂と記念堂の存在を知ったのは数年前のことです。（シンポジウムの報告論集を読んで知りました ※2）

2012年9月は関東大震災から89年目です。立派な記念堂も90年近くの時を経ると、訪れ

る人は少なく、納骨堂裏側の軒下はホームレスの住み家になっていました。眞面目に見て、もしかするとその居住者は何か考えがあってのことかもしれないと思ってみることにしましたが……少々複雑な気持ちになりました。

現在、被災各地では震災の記憶を風化させないためにモニュメント化の計画が進められています。100年後にも人々が訪れる場所となる工夫を計画に盛り込んでほしいものです。

※1 現在の住所は墨田区横綱、駅でいうと都営大江戸線の両国駅の近く。

※2 シンポジウム報告論集 関東大震災と記録映画 都市の死と再生

東京大学大学院人文社会系研究科 21世紀COEプログラム

「生命の文化・価値をめぐる『死生学』の構築」(2004年3月31日発行)

※本文中の数字等は「横綱町公園」公式ホームページ、※2の報告書を参考にしています。

【編集後記】

9月1日～2日に「いとこ会」で茨城県日立市の国民宿舎「鵜の岬」へ行ってきました。

ここは知る人ぞ知るリピーター率NO.1の国民宿舎で、幹事の従姉が1時間半電話をかけまくって予約を取ってくれました。

仙台から日立へ向かう途中、福島県いわき市にある水族館「アクアマリンふくしま」に寄りましたが、ここは津波で9割の生物を失ったとのこと。その後さまざまな機関や施設、たくさんの人々の支援を受けて、震災から4か月後の7月15日、スピード再開にこぎ付けたようです。

震災時に妊娠中だったゴマアザラシのくらはは助かり、千葉県鴨川市の「鴨川シーワールド」に避難して4月7日に無事出産、その後いわきに戻ってきたとのこと。

どんなときでも新しい命は希望の光、ゴマアザラシの赤ちゃんはその象徴のように思えます。

(大久)